

---

# 初雪

ナツキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

初雪

### 【Nコード】

N4439B

### 【作者名】

ナツキ

### 【あらすじ】

平次と和葉のほのぼの物です原作と異なる点はいくつかあるかもしれませんがご了承ください

その日は、大阪での初雪が降っていた

1月下旬

和葉は平次の部屋でごろごろしていた

平次が、事件の調査で出て行ってしまったのだ

和葉は、少しむっとしながらも笑顔で送り出した

平次・キラキラしてたんやもん

「止められるわけないやろ？」

何回も謝った平次

けど、やっぱりキラキラしてたんだ

何か分かったんだと思うんだ

だから・・・ええんや

もう少し、私も我慢せなあかん

「・・・綺麗やなあ。」

和葉は窓を少し開けて、手を伸ばした

「冷たいなあ。」

手のひらにのった小さな雪の結晶は、体温ですぐに溶けてしまう

何回か結晶がのった手のひらには雪解け水が溜まった

平次は雪とは違うなあ・・・もっと温かいもんなあ

「何・・・考えてんねん。」

私は一人でくすくす笑う

隣にあなたがいたら、良かったのに

いつも隣にいる彼も、今日はいない

おそらく夕方には帰ってくるやろ

それまでの辛抱や

平次にだってスケジュール予定はある

それは私かて同じや

「・・・これってわがままなんやろか。」

ずっと一緒にいたいってのはわがままなんやろつか

いつも一緒にいるって思ってたけど、やっぱり一人の時もある

凄く寂しい時もあるんや

「う・・・う・・・。」

真っ白な雪を見てたら涙が止まらなかった

平次がいないから？雪が綺麗だったから？

理由はよく分からないけど、とにかく涙が止まらなかった

なんでだろう・・・涙が止まらへん

今まで我慢してた分の涙やろつか・・・

雪は降り止んでしまった

「アホやな・・私。」

平次のこと、恥ずかしいくらい好きなんや

めっちゃくちや好きなんや・・・

分かってたことやのに、何故だか顔が熱くなる

ガラッ

「・・・和葉？」

「へ・・平次い。」

「何か・・あつたんか？」

「・・・う・・うう。」

「何や、俺がいなくて寂しかったんか？」

平次は冗談のように言った

私は泣きながら首を縦にブンブン振った

恥ずかしかったけど、構わへん

だつて、平次が傍にいるんやから。

「・・・しゃーないなあ。」

「え？」

平次は後ろから和葉に抱きついた  
和葉は顔を真っ赤にして言った

「何や！急に・・・。」

「ええやないか。」

そういえば、平次の体冷たいわあ。

雪で服はグショグショやないの

「冷たいやん。」

「走ったんや。」

「傘持つてへんの？」

「あるで。」

「じゃあ・・・何でや？」

「和葉に・・・言いたいことがあったんや。だから走って来た。」

「え・・・？」

ドキドキドキドキドキドキドキ

鳴り止まない胸の鼓動

こんなに近くにいたら、平次に聞こえてしまっやないの

「・・・外の雪だるま、あるやろ？」

「え？」

窓の外を覗くと、小さな雪だるまがあった

「あれがどうしたん？」

「・・・崩してみい。」

「ええ！」

「ええから、崩して来てや！」



和葉はすぐに外へ出た

こんなに寒い中、平次は走ってきてくれたん？

私のため・・・？

「平次ー！崩すでえ！」

「ああ、ええで。」

窓から私をジッと見る平次の顔

めっちゃキラキラしてた

「えい！」

思いっきり蹴っ飛ばすと雪だるまは真っ二つになってしまった

雪だるまを更に崩していく

冷たいなあ・・・

和葉は自分の息を手のひらに吹きかけた

ほんまに冷たいなあ・・・

すると、雪の中に輝く何かを見つけた

「え・・・？」

輝く何かとは、小さなダイヤがついている指輪だった

私はすぐに上を向いたが、平次は窓にいなかった

和葉は少しションボリした

期待してしもうた・・・結婚指輪エンゲージリングやなかった

平次がそんなことするわけ無いかあ

「和葉。」

「平次！！」

平次は、和葉の手を両手で包み込んで

息を優しく吹きかけた

温かい平次・・・

心地よいわあ・・・

「・・・薬指、出してや。」

「・・・ええで。」

和葉は温かい手のひらを平次に差し出した

ああ・・・平次の顔・・・キラキラしてるで

「好きや。ずっと前から・・・。」

「・・・私も、平次のこと大好きや。」

和葉の目からは涙がポロポロ零れ落ちた

平次な、ずっと前からこの計画立ててたんやって

ずっと初雪を待ってたんやって

嬉しいわ・・・めちゃくちゃ嬉しいわ

「あ・・・。」

また、雪は降り始める

ありがとう・・・

私、幸せやで・・・？

「・・・ずっと一緒にいてや。」

「当たり前やないか。」

和葉の薬指にはキラキラとダイヤが輝いていた

けど、ダイヤより輝いているのは・・・

大好きなあいつの顔やで・・・

## （後書き）

ナツキです。

連載の方もなるべく書きたいのですが・

全然書けないんです・・・

やっぱり始めての作品が連載つてのがいけなかったのでしょうか・・・

・

自分の文章力の無さに落ち込みます。

評価お願いしますd（。！。＊）ネツ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4439b/>

---

初雪

2011年1月4日15時36分発行